

派遣報告書（報告者：中屋敷 大）

大会名	第 77 回全日本大学バスケットボール選手権大会
開催地	東京都
日 時	令和 7 年 11 月 30 日（日）～ 12 月 1 日（月）
担当ゲーム 1	（男子） 星槎道都大学 vs 日本経済大学
相手審判	CC：東條 輝正（東京） U1：中屋敷 大（大分） U2：三島 彩（広島）
（担当ゲーム 1）Pre-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none"> ・チーム情報の確認（パンフレットを見ながら選手の特徴の把握） ・シンプルなプレコーリング ・クルーワークを発揮し処置ミスゼロへ 	
（担当ゲーム 1）Post-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none"> ・コンタクトに対してのリーガルイリーガルの正しい判定をクルーで同じ基準で吹くことができた ・ローテーションを起こさないと、と思いつぎで不必要なローテーションを起こしバランスを崩してしまった。 ・プライマリーを守り、シングルコールが多くクルーの判定を尊重しながら試合を終えることができた。 	

担当ゲーム 2	（男子） 北陸大学 vs 島根大学
相手審判	CC：仲間 芳幸（沖縄） U1：中屋敷 大（大分） U2：新山 亮祐（青森）
（担当ゲーム 1）Pre-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none"> ・チーム情報の確認（過去の経歴やこれまでに吹いたときの選手の特徴の確認） ・ヘルプ DF の目の当て方の確認 ・外国籍への日本人の DF の守り方やダブルチームの目の当て方の確認 	
（担当ゲーム 1）Post-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none"> ・アイコンタクトを取りながら 1 試合を通してスムーズにゲームを進めることができた。 ・フェイクに対してのクルーワークや、イリーガルスクリーンへの基準、コンタクトの基準などイリーガルなものは同じ基準で判定することができた。 ・POC に課題を感じた。もう少しポジションアジャストの工夫が必要。プレーの初めの部分が少しブレている可能性があるため、予測をし、早く正しいポジションに入ることが必要だと感じた。 	

今大会に参加しての感想など

大会を通じて、大学生のフィジカル面の強さやテクニックの高さに感心した。ファウルを取り上げることは簡単だが、どこまでプレーを見てタフな試合に持っていくか、そのために、瞬間の笛ではなく現象に対してしっかり分析し、誰が見てもわかる判定をしていきたい。それを実現させるためにも、よりペイシエントなコールを心がけないといけないと感じた。またクルーが取り上げたものの意図や選手のプレースタイルなども感じ取りながら判定をどうしていくかなどのゲームコントロールは、自分の中でもっと研鑽を積んでいかなければいけないと思った。最近ブラッシュアップにばかり目がいきがちになっているが、もう一度基盤を固めるためにもベーシックな部分を見直しリビルドしていきたいと思った。

今回、派遣して下さった大分県バスケットボール協会の皆様、審判委員会の方々へ深く感謝し報告とさせていただきます。